

講義 A 事例提示

事例提示（講義 A）

事例	20代前半男性。高校卒業後、ひきこもり状態が続く。父を嫌い、コミュニケーションも十分にできない事例。
主訴	ひきこもり。
家族	両親と本人の3人暮らし。姉が県外で働いている。
内容	<p>1歳半健診で、ことばの遅れを指摘されたことがある。もともと大人しい性格で、小学校2年のときに、「先生に怒られる」と言って登校渋りがあった。学校では、大人しい子たちと行動をともにしていた。</p> <p>自宅では、父がしつけに厳しく、手をあげることも珍しくなかった。母も、父を怒らせないように、本人や姉を厳しく叱り、母は、本人が現在のような性格になったのは自分のせいだと思っている。</p> <p>中学校2年のとき、いじめにあい不登校に。何とか、通信制の高校を卒業し、工場に就職したが数日で退職し、以降ひきこもりの状態にある。自宅では、父を避け、ほとんど部屋から出て来ず、夜中に食事をしている。ハローワークなどを経て当センターに母とともに来所。本人は、うなづく程度で会話も難しい。</p>

事例提示（講義 A）について

- 本人は、ひきこもり状態にある。
- 父を避けて、ほとんど部屋から出て来ない。
- 母は、自分の育て方が悪かったと思っている。
- 本人は、十分な会話が出来ない。
- しかし、相談に来てくれているので、自分も、何とかしたいという気持ちはあるのかも。

皆さまなら、どのように考え、
どのように支援しますか。

正解はありません。

（中間アンケートにご記載ください。

応用編の参考にします。記載は任意です）

講義 B 事例提示

事例提示（講義 B） 1 / 2

事例	10年以上、ひきこもりの状態が続く。両親は80代だが、様々な要求をしてくる50代男性。
主訴	ひきこもり、ときに家庭内での暴言。
家族	両親、本人の3人暮らし。
内容	<p>幼少期より、人になじめないタイプだった。小中学校では、登校渋りはあったが、長期に休むことはなかった。本当は高校に行きたくなかったが、周囲に促され全日制高校に進学。しかし、勉強について行けず、人付き合いも苦手で不登校となり、定時制高校に編入し、5年かけて何とか卒業した。</p> <p>卒業後、ホームセンターに就職するも1年で退職。以降、コンビニなどに就職するが、いずれも人間関係が上手くいかず、短期間で退職を繰り返す。コンビニでは、自分のやり方で丁寧に仕事をし、トイレ掃除、棚の陳列も徹底的にきれいにしているのに、何故叱られるのか分からないという。自分の気になることを徹底的にするので、その場の状況や時間への配慮ができず、やめることになったと。</p>

事例提示（講義 B） 2 / 2

事例	10年以上、ひきこもりの状態が続く。両親は80代だが、様々な要求をしてくる50代男性。
内容	<p>40歳頃には、ほとんど外出もせず、ひきこもりの状態が続いている。2階の自室で過ごすことが多く、食事も、ほとんど自分の部屋に持ち込んで食べている。昼夜逆転の生活で、入浴もたまにしかしない。</p> <p>家族との会話はできるが、穏やかに話すことはなく、ときに小学校やコンビニで叱られたことを思い出して、不安やイライラを強く訴えることがある。自分が気に入らないことがあると、感情的になり、大声を出し物を投げる。母がなだめようとすると、余計に感情的になり、何をしても治まらない。一度、暴れた時に近所の人が通報して警察が来たことがある。</p> <hr/> <p>両親が相談来所。ニュースでひきこもりの事件を見ると他人事ではないと不安になる。未だに、親に物の要求が多い。親亡き後、どうなるのか不安で仕方ない。</p>

事例提示（講義 B）について

- 本人は、ひきこもり状態にある。
- 過去の不快な体験を思い出し、興奮することがある。
- 両親は、80代と高齢である。
- 未だに、両親に要求が強く、暴言が再三ある。
- 本人は、相談に来そうにない？

皆さまなら、どのように考え、
どのように支援しますか。

正解はありません。

（中間アンケートにご記載ください。

応用編の参考にします。記載は任意です）

講義 C 事例提示

事例提示（講義 C）

1 / 2

事例	中学入学後、不登校となり、時に家庭内暴力を認める、自閉スペクトラム症事例。
主訴	不登校、家庭内暴力。
家族	両親、姉、本人の4人暮らし。近くに、祖父母が住む。
内容	<p>小さい頃から、目立つことが苦手だった。小学校入学後も、集団行動を嫌い、友だちも、2、3人に限られていた。</p> <p>神経質で完璧主義、机の上は角がそろえてあるくらい整い、筆箱も斜めにしない。漫画は1巻から順にきれいに本棚に並べる。自分の思い通りにしたい、それができないと気が済まない、イライラして当たり散らす。一方で、小学校の成績は、学年で1、2番だった。陸上クラブに入り、短距離走が得意だった。</p> <p>中学校に入学した直後、体調を崩し、勉強が思うようにできなくなった。また、陸上部に入るも、先輩が厳しく、同級生にもついていけなくなり、5月の連休明けから学校に行けなくなった。</p>

事例提示（講義C） 2 / 2

事例	中学入学後、不登校となり、時に家庭内暴力を認める、自閉スペクトラム症事例。
内容	<p>学校を休み、自宅でゲームばかりしている。祖父母や母から、強く登校を促され、本人は物を投げて反発してきた。学校から「今は無理にはたらきかけず、様子を見ましょう」と言われたが、逆に、母は、学校は積極的に登校を支援すべきではないかと不信感を抱いた。父は、見守る姿勢でいるが、母は、本人が学校に行けないことを認めることができず、自宅でも本人を問い詰め、仕事中也気になって、再三、本人に登校を促すメールを送っていた。母が、当センターに相談来所となる。</p> <hr/> <p>母の通所面談とする。子どもとの関わりは父に任し、母は一步引くことにて少しずつ攻撃性は低下し、たまに登校するようになった。しかし、2年に進級した時、状態が悪化し、家族との会話もしなくなった。本人がタブレットを買って欲しいと言ったが断ったところ、興奮して物を投げつけ、本人の部屋の床は教科書や本で散乱し、壁にはハサミが突き刺さっていた。</p>

事例提示（講義C）について

- 本人は、不登校、ひきこもり傾向にある。
- 母は、不登校を受け入れられない。
- 本人には、何らかの特性があるかもしれない。
- 家庭内暴力がでている。
- 母のみの、家族相談が続いている。

皆さまなら、どのように考え、
どのように支援しますか。
正解はありません。

（中間アンケートにご記載ください。

応用編の参考にします。記載は任意です）